

格差と貧困が広がる今だから

弱い立場の人たちを守る 議員が絶対に必要です。

職と住まいを失った人に 生活保護の道ひらく

これまでも、無料生活相談を定期的にかけて借金や生活苦などの解決にあたってきましたが、ホームレスの方をはじめ生活保護をなかなか受けさせなかったのがこれまでの福岡市でした。

しかし市民団体の方とともに、「派遣切り」で住居を失った方の相談に大規模にとりくみ（いのちとくらしの相談会）、集団申請を実現し、こうした方々の生活保護支給の道を開くことができました。



2009年3月、市民団体とともに開いた「いのちと暮らしの相談会」（福岡派遣村）で「派遣切り」にあつて職・住居を失った260人が来訪。私も相談にのりました。

国にも生活保護のケース
ワーカーや児童虐待対策
にあたる児童福祉司の増
員を求める（10年11月）



福祉職員をふやさせる

生活保護のケースワーカー（生活に困っている人の相談・援助を行う）に話を聞くと「本当はもっと一人ひとりに親身になりたいのに、1人で110件もケースも担当すると無理です」ということでした。

市職員を減らせば減らすだけいい、という市政のあり方を正し、福祉分野の増員を議会で要求。少しずつですが増員を実現しています。

とりで 貧困と戦う砦 ＝生活相談会



50代の女性は生活苦の中で自殺されようとしていましたが、私が毎月開いている生活相談会のピラを握りしめて来訪されました。その方は生活保護を受けることができ、今は元気に仕事をされ、自立しています。

学生や教師のときに子どもの貧困を見たり、議員になってから生活相談にとりくんでも、強く思うのは、貧困は「個人の問題」などではなく、明らかに社会のゆがみの反映だということです。

私は貧困と戦う政治家でありたいと思っています。